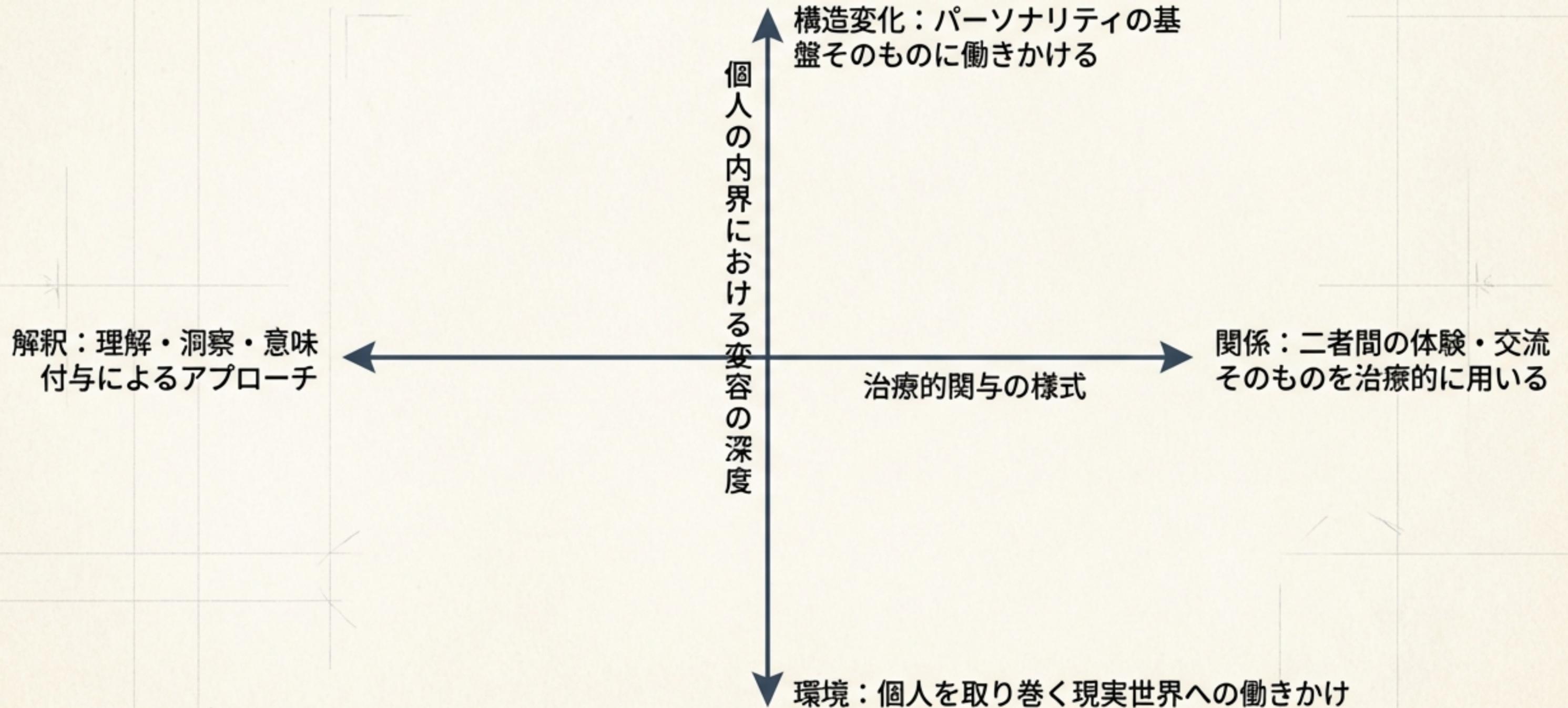


「支持療法という言葉は、我々が『理解できない沈黙』を前にしたときに抱く無力感を隠蔽するための、便利なゴミ箱であった。」

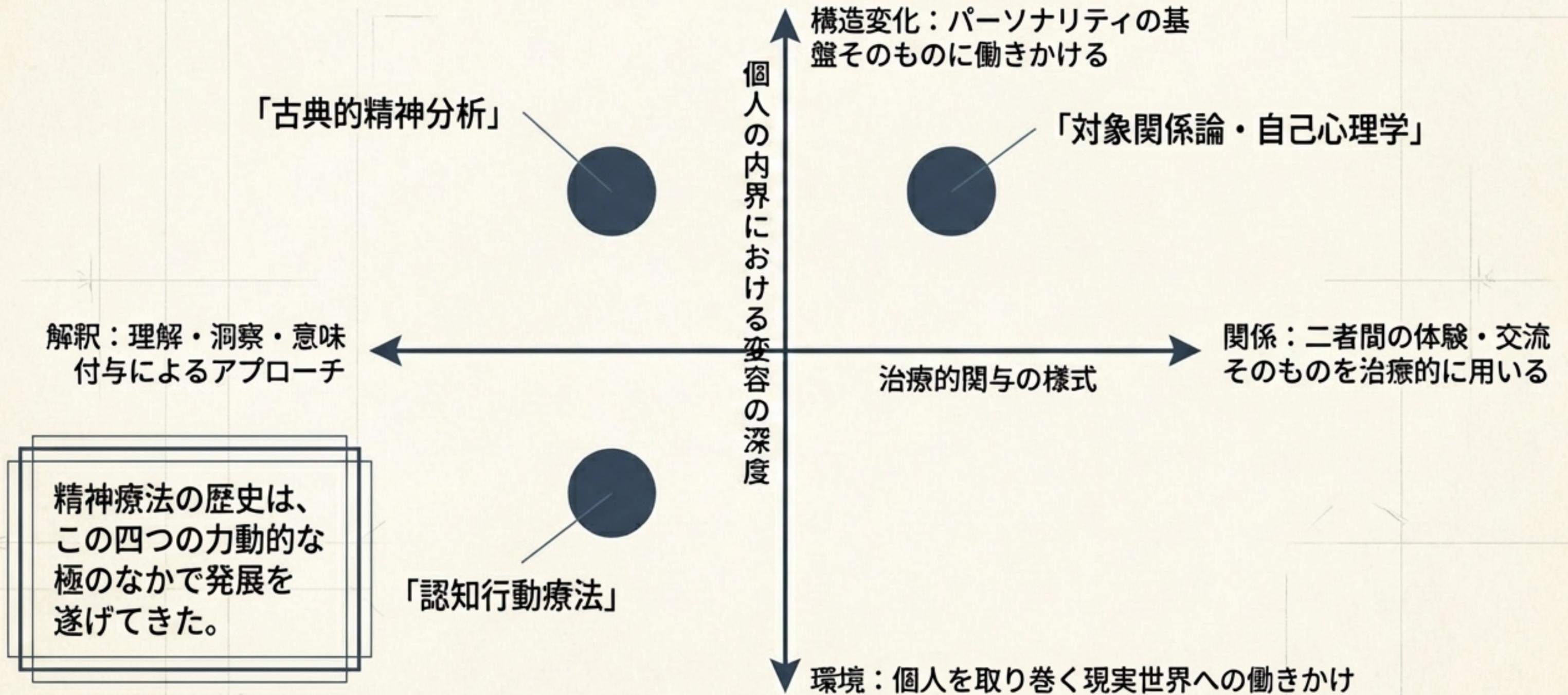
「変わらないこと」の積極的意義：温存的精神療法の誕生

「精神医学の盲点を突くパラダイム・シフト」

精神療法の海図：臨床的関与の四つの極



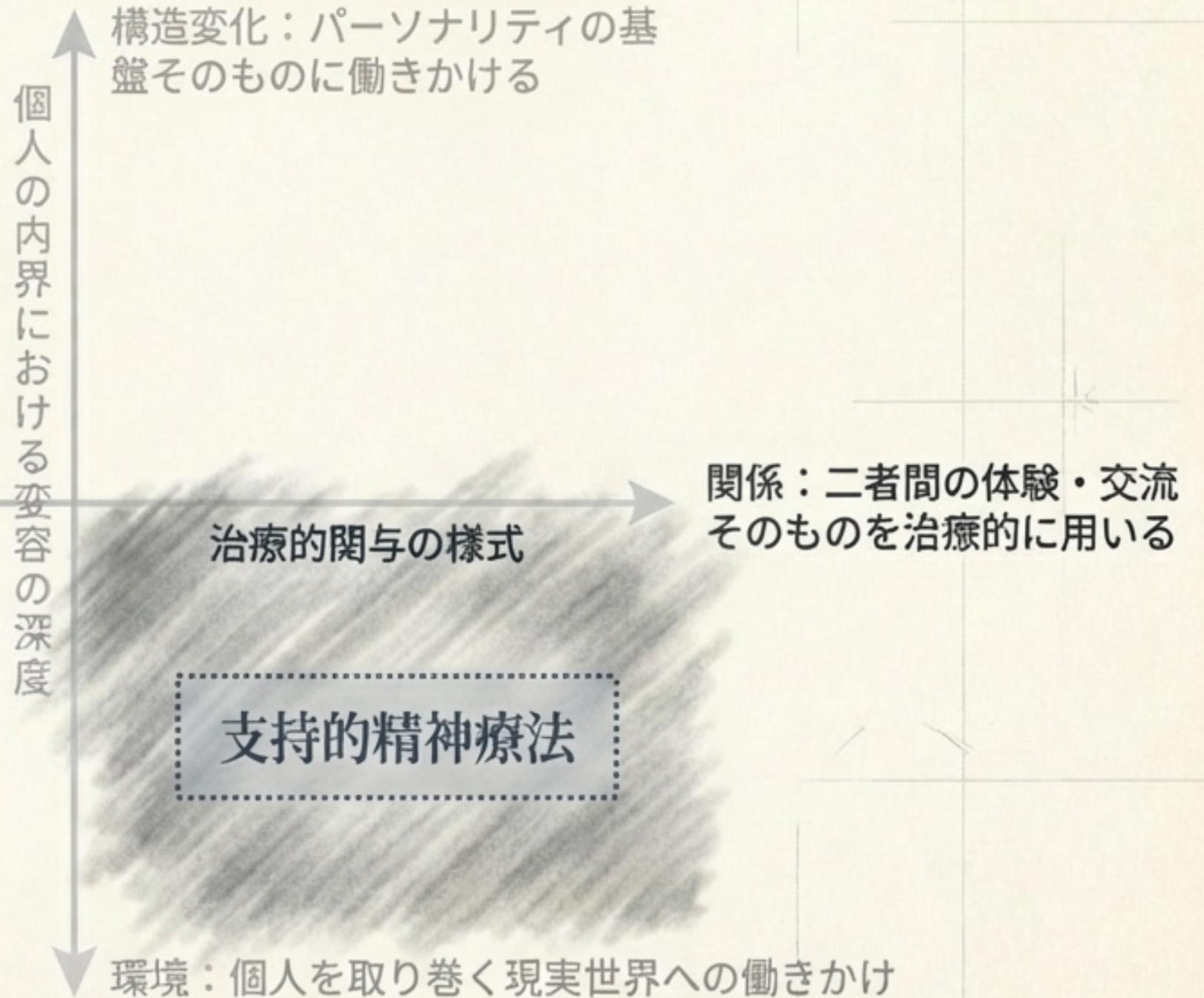
精神療法の海図：臨床的関与の四つの極



曖昧な領域としての『右下』象限

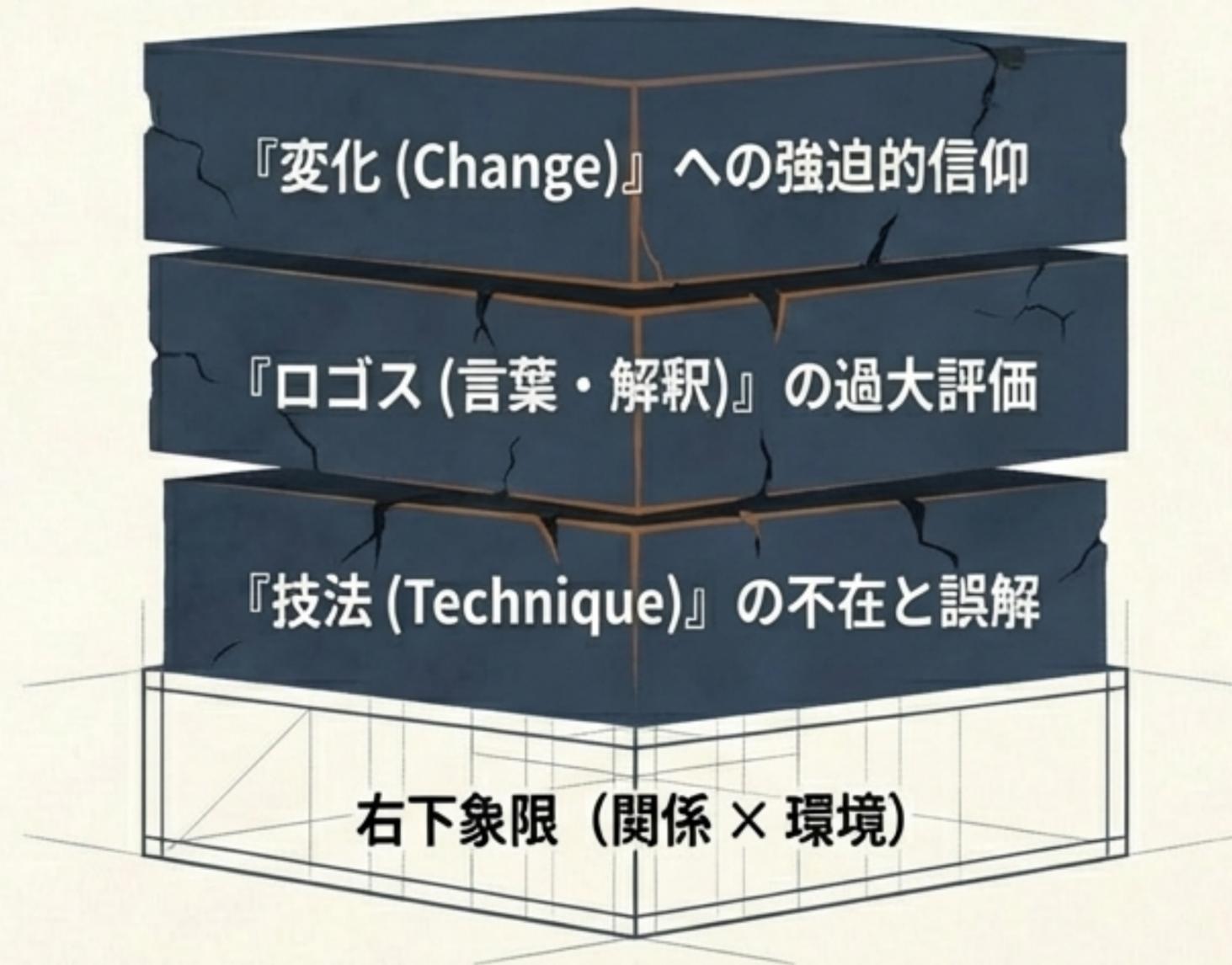
なぜ精神医学の歴史において、
この『関係×環境』の領域だけが
『その他大勢』や『予備的処置』という
不当に低い地位に甘んじてきたのか？

解釈：理解・洞察・意味
付与によるアプローチ



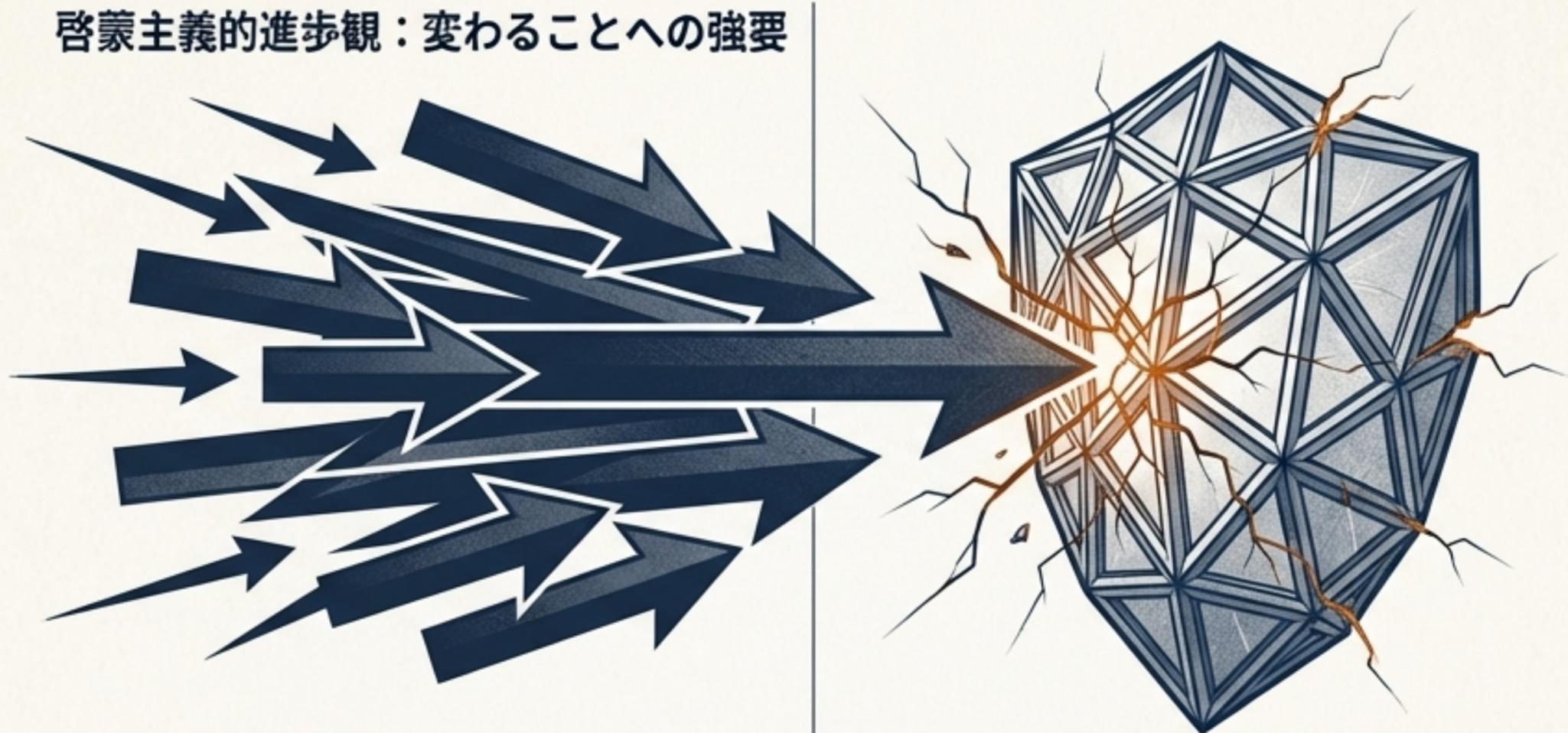
支持療法を抑圧してきた3つの歴史的バイアス

支持療法が独立した理論として発展しなかった背景には、近代精神医学が内包する3つの強固なバイアスが存在する。



第一のバイアス：『変化』への強迫的信仰

啓蒙主義的進歩観：変わることへの強要



変わらないことで自己を守る機能（解離や防衛）

『構造変化』をもたらすことのみが『治療』とされてきた。

現状を『温存』することは、臨床的停滞や敗北と見なされる。

結果として、患者の不可欠な防衛メカニズムを『抵抗』として攻撃する過ちを犯してきた。

第二のバイアス：『ロゴス』の過大評価

The Logos Spectrum



精神療法は『言葉にすること』を神聖視してきた。意識できない核心的な記憶に対し、『未熟』『抑圧』とレッテルを貼り、父権的な蔑視を含んだ妥協的処置として『支持』という言葉を使ってきた歴史がある。

第三のバイアス：『技法』の不在と誤解

The Illusion

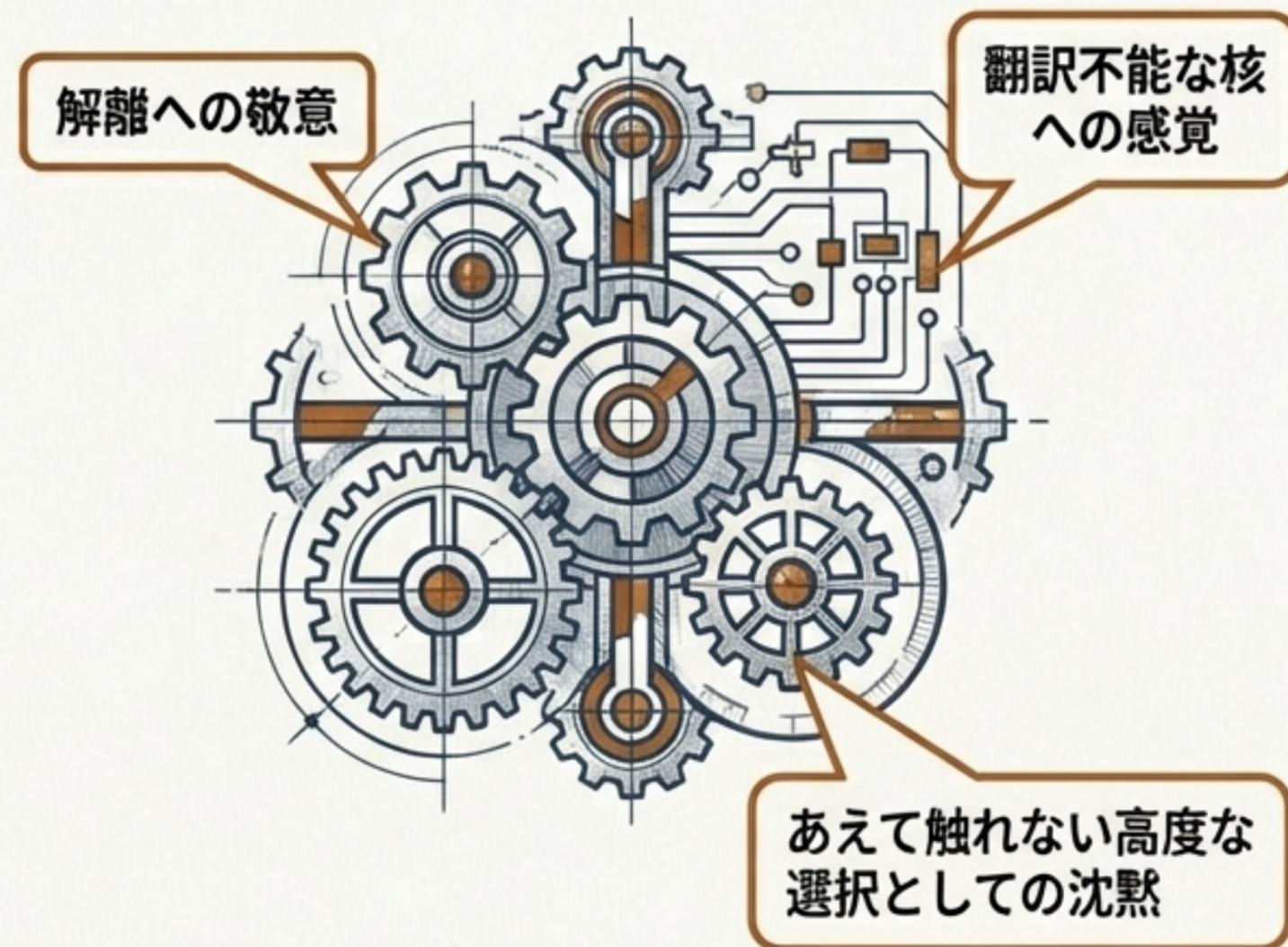
日常的な優しさ・励まし



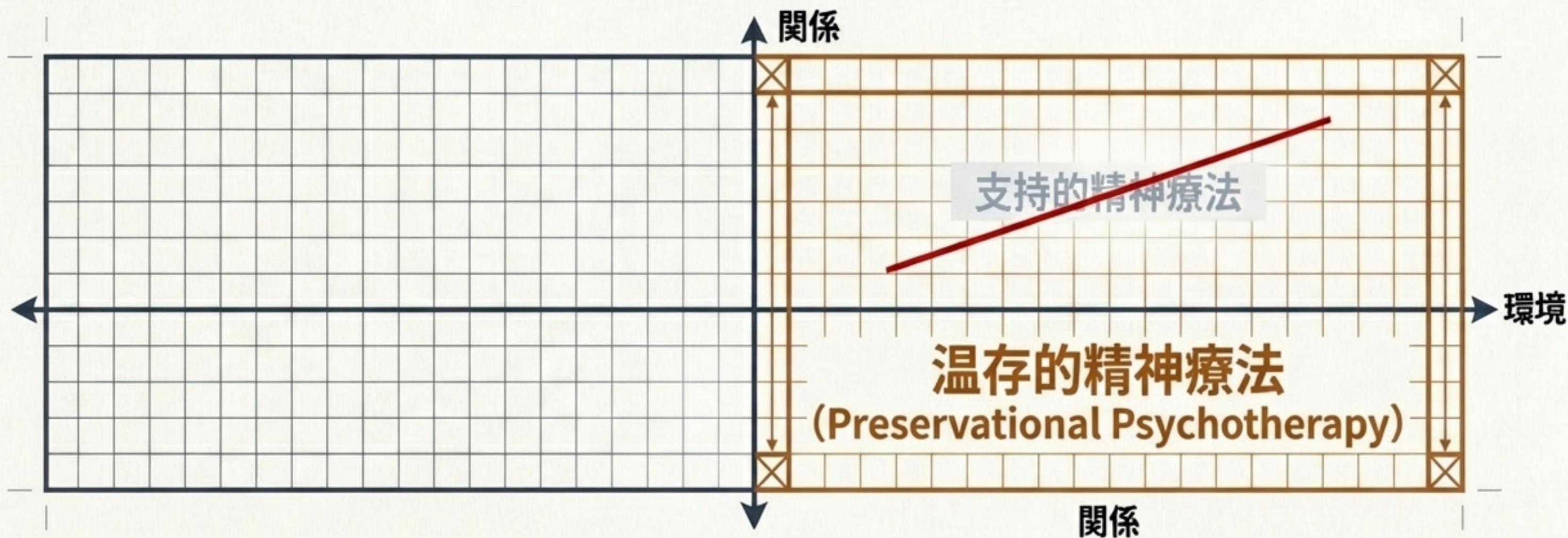
無能な治療者の『何もしないこと』との混同

The Reality

高度に専門的な『技法』の体系

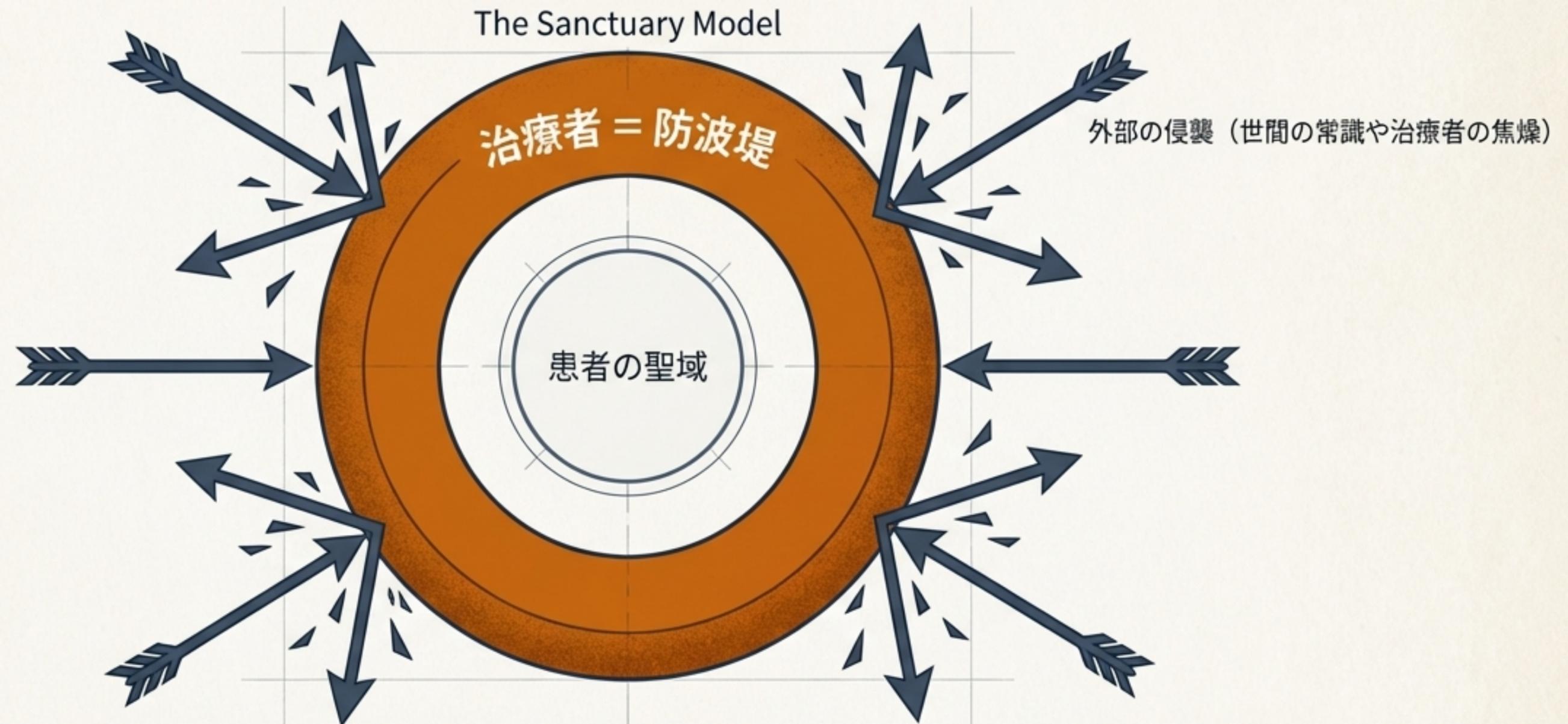


ゴミ箱からの奪還：新たなるパラダイムの提示



『関係 × 環境』の極点を目指す、明確で独立した理論的枠組み。
中途半端な解釈療法の影から脱却し、能動的な治療介入としての地位を確立する。

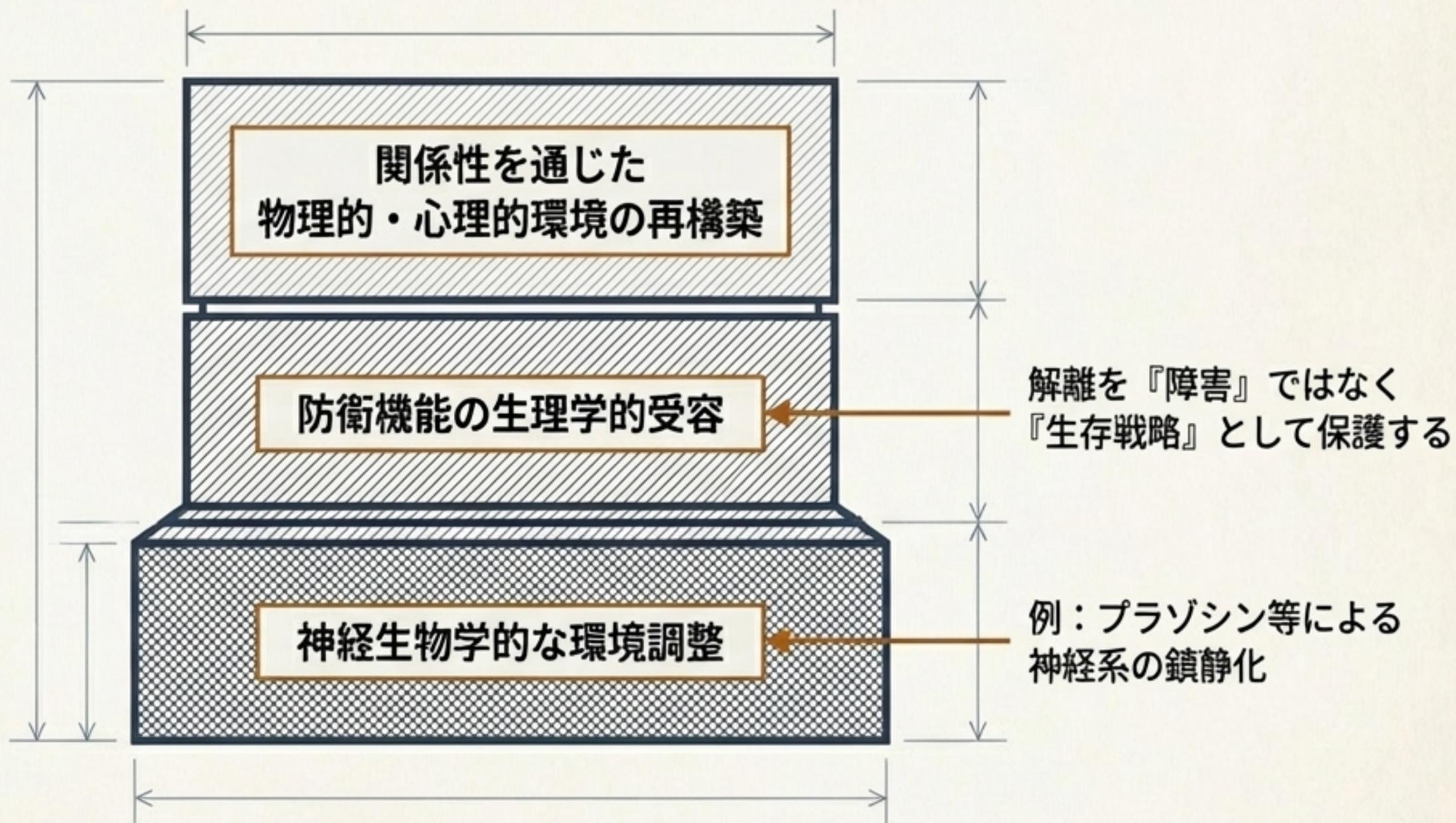
受動から能動へ：『温存』という攻撃的なまでの守護



『支持』という受け身の響きを捨て去る。『温存』とは、患者の内的世界を外部環境の暴力から死守する、極めて能動的で強靱な臨床的態度である。

温存を支える確固たる科学的根拠

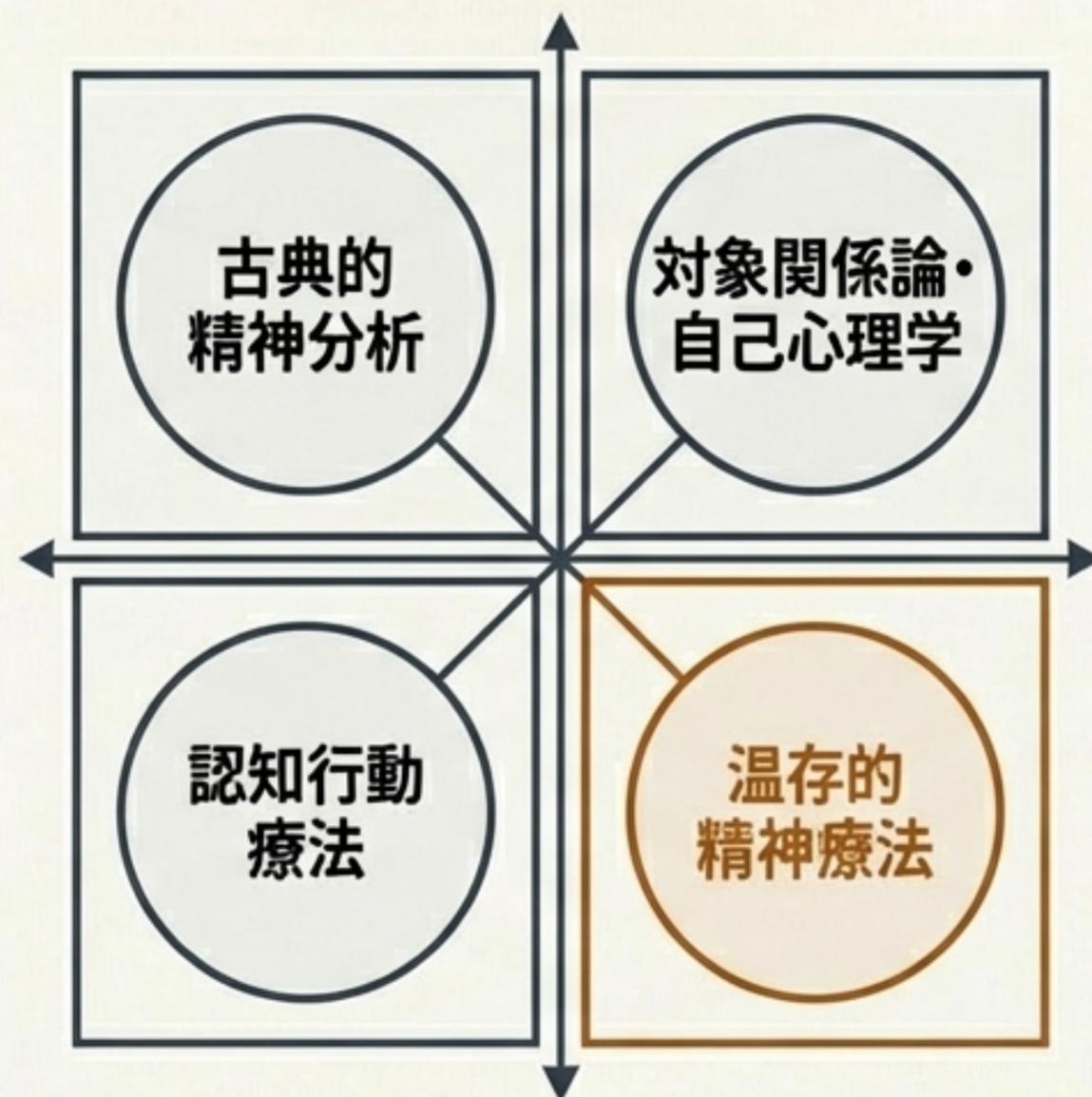
かつての支持療法に欠けていた『理論的支柱』を統合する。



パラダイムの比較：支持から温存へ

	従来の『支持療法』	温存的な精神療法
治療的スタンス	受動的・妥協的	聖域の能動的死守
沈黙の意味	言語化の無能力・抵抗	翻訳不能な核の存在・共有
防衛への作用	最終的な解除を目指す	解離への深い敬意と保護
科学的基盤	日常的な励まし・曖昧	神経生物学的な環境調整

精神療法史のパズルが完成する



『右下』の象限を独立したパラダイムとして確立することで、
精神医学は『変容の技術』と『温存の技術』の真の統合を果たす。



人間の回復力に対する真の謙虚さ

“Preservational Psychotherapy”の提唱は、単なる名称変更ではない。それは、変われないこと、変わるべきではないことへの深い敬意の表明であり、精神医学が長年見落としてきた『臨床的リアリズム』の奪還である。